

産 経 新 聞

終戦間際 熊本5飛行場の写真

さきの大戦末期の昭和20年7月、熊本県内にあった旧陸軍玉名飛行場など5カ所の飛行場を、米軍機から空撮した写真52枚が、米国立公文書館で確認された。画像をみると、数カ月前の空爆の被害を放置した状態だが、地元研究者は「日本軍が進めていた基地の地下化を、秘匿しよう」という意図がある」と分析した。

(谷田智恒)

米軍撮影 米国立公文書館で

市民団体「空襲・戦災を 場の内訳は、陸軍の玉名10記録する会全国連絡会議」 枚、菊池9枚、黒石原16事務局長の工藤洋三氏(74) 枚、隈庄8枚と、海軍の人山口県周南市が発見し 吉9枚だった。

工藤氏は徳山工業高等専門学校(高専)の元教授で、空襲・戦災に関する研究を続ける。毎年3〜4月には、米ワシントンにある国立公文書館を訪れ、米軍資料を精査してきた。

今春、同公文書館で発見した52枚は、20年7月27日撮影の151枚の中にあつた。鹿児島県の知覧飛行場などと一緒に収録されていた。

当時沖縄に駐屯していた米極東航空軍写真偵察中隊が、撮影したという。52枚のうち、熊本飛行

被害放置し敵あざむく



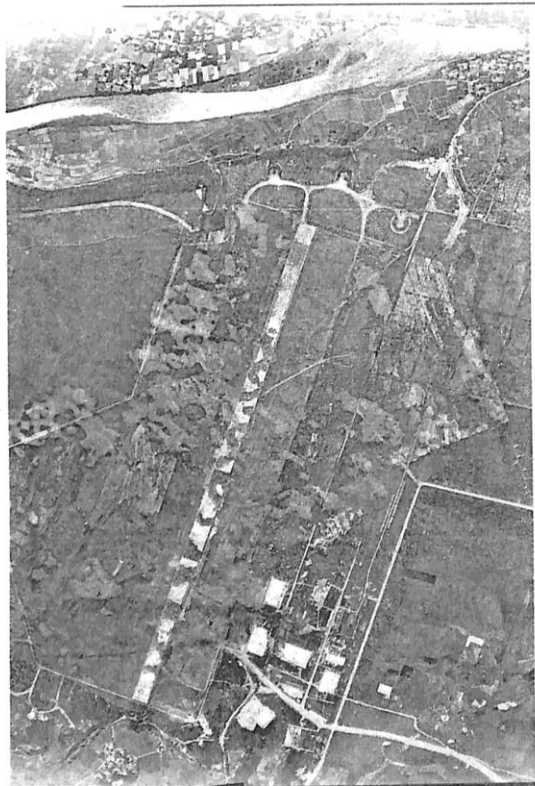
菊池飛行場の空撮写真。破損したままの格納庫や兵舎などが確認できた

たという。特攻機の中継基地でもあつた菊池飛行場は、3月以降4回に及ぶ空襲で格納庫屋根は大きくめくれ上がり、鉄筋も露出してた。周囲に盛り土をした掩体壕に、破壊された機体が放置されていた。

海軍人吉飛行場は、滑走路にまだら模様の対空迷彩を施していた。同飛行場の滑走路は、熊本県内で唯一、コンクリート舗装されていた。

高谷氏は「当時の日本軍は本土決戦に備え、飛行場の地下基地化に取り組んでいた。写真からは、空爆で破壊された基地を放棄したように見せて、米軍を欺こうとした意図が読み取れる。画像も鮮明で資料性も高い」と語った。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークは11日、熊本市立図書館(中央区)で開催中の「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」の会場で、今回発見された写真の一部の公開を始めた。26日まで。入場無料。



海軍人吉飛行場の空撮写真。左下から右上に伸びる滑走路には、まだら模様の対空迷彩が施されていた

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークは11日、熊本市立図書館(中央区)で開催中の「絵本・戦時資料から見た熊本空襲」の会場で、今回発見された写真の一部の公開を始めた。26日まで。入場無料。